

二月議会本会議 一般質問

県議会就任後2回目の登壇になり、次のとおり質問しました。

【高比良元質問】

収支構造改革について

①県有財産の売却・有効活用について

現在、普通財産のうち未利用地の概算評価額は53億3千万円。このうち処分等予定地の概算評価額は32億4千万円として整理されている。しかし、収支構造改革で示された県有財産の売却、有効活用額は3ヶ年で12億4千万円。しかもこの中には公舎駐車場の有料化による2億2千万円が計上されていることから、実質、売却等による処分予定額は10億2千万円であり、処分等予定地の評価額の3分の1強に過ぎない。

また、売却等から除かれる保有地、評価額20億8千万円の中にも、対策が不明確なまま残されているものも見受けられる。更に、行政財産で有効活用されていないものや利用頻度が少ないものなどは、普通財産として処分等有効活用を図ったかどうかと思われるものが多数存在する。



壇上から質問する高比良元県議

県有財産の売却・有効活用についての取り組み方を見直し、計画額をもっと引き上げていく考えはないか。

【総務部長答弁】

現在の未利用地等の中に立地条件の悪いものや、広大な土地で利用が難しく買手がつきにくいものなどを勘案し、今後生じる未利用地等の売却予定分も加味しながら、今回の目標額を設定した。処分可能な県有財産については積極的に売却を行い、収支改善を図っていく。

【高比良元質問】

収支構造改革について

②内部管理経費の削減について

歳出削減計画で、内部管理経費の

見直し額は32億6千万円、これに対して県単独補助金等の見直し額は35億4千万円で、内部経費の削減額より県民サービスのカットのシェアーが大きい。また、これに歳出削減項目「その他」の単独建設事業等の削減の中には、補助事業等の縮減も含まれているわけで、その差は更に大きくなる。

補助金を頭から10%カットするというやり方で、結果として県民へのサービス水準を落としてしまうことになり、計画の立て方、示し方としていかなるものかと思う。

そこで、重点化、効率化等による補助金の見直しや、事務事業等の見直しは、事業評価の結果と整合性の

取材メモ

長崎新聞 3月4日付

大土木部も汗を「なぜ大土木部の見直し額が出納局より少ないのか」三日の県議会一般質問で、県が取り組む総額百六十五億円の「収支構造改革」の内部管理経費の見直しについて、高比良元(改革21)議員がみつめた。高比良議員は「内部管理経費見直しは三年間で約三十二億円の削減額。大半の部署は県教委一七億円、総務部四億円など四部署。一方、土木部は三

「大土木部も汗を」
「なぜ大土木部の見直し額が出納局より少ないのか」
三日の県議会一般質問で、県が取り組む総額百六十五億円の「収支構造改革」の内部管理経費の見直しについて、高比良元(改革21)議員がみつめた。
高比良議員は「内部管理経費見直しは三年間で約三十二億円の削減額。大半の部署は県教委一七億円、総務部四億円など四部署。一方、土木部は三

「大土木部も汗を」
「なぜ大土木部の見直し額が出納局より少ないのか」
三日の県議会一般質問で、県が取り組む総額百六十五億円の「収支構造改革」の内部管理経費の見直しについて、高比良元(改革21)議員がみつめた。
高比良議員は「内部管理経費見直しは三年間で約三十二億円の削減額。大半の部署は県教委一七億円、総務部四億円など四部署。一方、土木部は三

取れたものであるのか、また、内部管理経費の削減額はどのような手続のもとに精査され積み上げられたものか、そして、削減額のシェアーを見直す考えはないか。

【総務部長答弁】

内部管理経費の

削減は、各部署が主体的に個別事業を見直し、精査をした。内部管理経費の削減の実績額では、さらなる上積みができるよう予算編成作業などを通じて検討を行い、内部管理経費削減の割合を高めるよう努力する。

【高比良元質問】

銃器対策について

県警では全国に先駆けて、猟銃の「先台」を所有者から提供してもらい、警察署で一定保管する措置を更に拡充しようとしている。犯罪発生の誘因となる元を絶つという取り組みとして大変有用である。この県警の自主的な取り組みに法的根拠を付与してはどうか。法律の規制を超えた条例による規制が法体系上困難なことから、自主規制を促進する条例という枠組みでしかできないが、許可権者と許可を得て銃器を所持しようとする者、所持している者の双方に、社会的に適当な努力義務を課す